

2025年度第2回 医療法人社団主体会倫理委員会 会議記録の概要																
開催日時	2025	年	7	月	29	日	～	2025	年	12	月	16	日			
開催場所	迅速審査															
出席委員	市原、川合、長田、原、小西、今村、水谷、大塚、中西、坂（敬略称、順不同）															
研究計画変更の審議																
申請者	山中 元樹															
研究名	脳卒中片麻痺患者における胸郭可動性と身体機能の関連															
研究内容 要旨	脳卒中片麻痺患者は肺炎など呼吸器合併症が生じやすい。その原因として胸郭可動性の低下による換気量減少が挙げられる。本研究においては、当院の回復期リハビリテーション病棟(以下、回復期リハ病棟)に入院している脳卒中患者を対象に身体機能と胸郭可動性の関連を検討し、身体機能と胸郭可動性が関連するかを明らかにすることで、理学療法介入における胸郭に対するアプローチを検討する一助とし、呼吸器合併症の軽減につなげることを目的とする。															
審議結果	承認 2023-6-7															
意見	表題の変更と研究期間の延長および評価項目を上肢から麻痺側に拡大(日常診療内)する変更であり、特に問題ないと考えられるため承認としました。															
研究計画変更の審議																
申請者	西村 駿															
研究名	当施設の慢性腰痛を有する看護・介護・リハビリ職員における腰痛の実態と実践する4週間の自宅でのセルフエクササイズの効果の検討 ～4週間の骨盤周囲筋のストレッチ・Bracingを行っての運動の実施～															
研究内容 要旨	当施設で、介護動作が原因と思われる介護・看護、リハビリ職員の腰痛を有する者は過半数以上を占め、腰痛予防対策は急務である。腰痛診療ガイドライン 2019年(改訂第2版)では、慢性腰痛に対する運動療法は有用であると示している。 そこで本研究の目的に慢性腰痛のある当施設看護・介護職員に対して実践して行う自宅で行えるセルフエクササイズが腰痛軽減対策に有効であるか明らかにすることとした。															
審議結果	承認 2024-2-5															
意見	軽微な変更であり、特に問題ないと考えられ、承認としました。															

新規研究計画の再審議	
申請者	森 佑輔
研究名	12年間の採血データに基づく維持透析患者の生命予後解析
研究内容 要旨	本研究では、単施設において2012年から2024年の12年間にわたる採血データを用いて、各種検査値と生命予後との関連性を後ろ向きに検討することを目的とする。本研究より臨床現場における骨・ミネラル管理の見直しに繋がる情報や、透析患者のQOL(生活の質)や生存率の向上に資することが期待される。また近年に改訂が行われる、骨・ミネラル代謝の診療ガイドライン改訂後の当院の治療指針となることが期待できる。
審議結果	承認 2025-5-3
意見	前回指摘された箇所は修正されており、特に問題ないと考えられ、承認としました。
新規研究計画の審議	
申請者	川合 圭成
研究名	物忘れ外来患者の物取られ妄想に関連する因子
研究内容 要旨	物忘れ外来患者が物盗られ妄想を呈することをしばしば経験するが、その原因と対策については十分に分かっていない。本研究では、物盗られ妄想を呈する患者と呈さない患者で、何が異なるのか？について、認知機能検査結果や日常生活動作や行動心理症状以外に、家庭環境（一人暮らしなのか、家族と同居しているのか）を比較し、誰が、何を盗ったと言うのか？などを調査し、その原因を明らかにすることを目的とする。
審議結果	承認 2025-6
意見	侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審査であり、迅速審査を行いました。全員一致で特に問題ないと考えられ、承認としました。

新規研究計画の審議	
申請者	佐野 友彦
研究名	斜角筋間腕神経叢ブロック麻酔におけるデキサメタゾン追加効果の検討
研究内容 要旨	2024年10月以降に斜角筋ブロック麻酔において、局所麻酔薬にステロイド剤を混合しての投与を開始したため、それ以前（麻酔薬単独投与症例）と比較して、麻酔の効果時間、術後疼痛の程度、術後に追加使用した鎮痛薬の種類と量、麻酔効果範囲、合併症率の変化などを比較検討する。
審議結果	承認 2025-7
意見	後ろ向きコホート研究であり、侵襲を伴わない研究であり、介入を行わないものであり、特に問題ないと考えられ、承認としました。
新規研究計画の審議	
申請者	鈴木 恵理
研究名	補聴器を装用している難聴者が入浴時に困る事について
研究内容 要旨	高齢化社会に伴い、65歳以上の高齢者人口の増加により、難聴が認知症発症の大きなリスク因子であることが明らかになり、難聴者への補聴器の利用がすすめられています。補聴器は入浴時には外すことが前提となっていますが、補聴器装用者は日々の入浴時や温泉入浴時に、不便を感じている可能性があります。その実態について補聴器を装用されている患者様、職員にアンケート調査を行います。アンケート期間は2026年1月6日から4月30日までです。
審議結果	継続審査 2025-8
意見	侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審査で、心理的苦痛を伴わないアンケート調査と考えられ、迅速審査を行いました。研究等実施計画書7・で公開とした研究内容の文書がありませんでしたので継続審査としました。

新規研究計画の再審議	
申請者	鈴木 恵理
研究名	補聴器を装用している難聴者が入浴時に困る事について
審議結果	承認 2025-8-2
意見	前回指摘されていた箇所は修正されていたので、承認としました。